

謹賀新年

昨年は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます
本年も社員一同皆様にご満足頂ける商品・品質・サービスの提供を心がける所存
でございますので
何卒昨年同様のご愛顧を賜りますよう御願い申し上げます



NEZU GROUP

根津鋼材株式会社
有限会社小山運輸

代表取締役社長
代表取締役社長

令和2年 元旦
根津 訓光
小山 雅伸

TOPICS

- ① 鉄鋼関連情報 (社団法人鉄鋼連盟)
- ② 祝！東京オリンピック、パラリンピック

1

鉄鋼関連情報(社団法人鉄鋼連盟)

下記 URL より社団法人鉄鋼連盟が発表した『鉄鋼需給の動き 2019年12月』の資料を閲覧することが出来ます。

<http://www.jisf.or.jp/data/jyukyu/documents/jyukyu1912.pdf>

■新たなテクノロジーが活用されてきたオリンピックの歴史

オリンピックに関連してITが取り上げられる機会はそう多くはありません。

これまでのオリンピックを振り返ってみると、最新テクノロジーが採用されてきました。

1960年のローマ・オリンピックでは、オリンピック競技初のテレビ生中継がスタート。

1972年のミュンヘン・オリンピックでは、データ処理端末による競技結果などのデータベースが提供

1996年のアトランタ・オリンピックでは、初のオフィシャルサイトが開設

2020年の東京・オリンピックでは、初のクラウドで稼働

■史上初の「完全クラウド」なオリンピックになる東京オリンピック

2020年の東京オリンピックの際立った技術的特徴として、クラウドが挙げられます。

今回の東京オリンピックは、大会運営の基幹ITシステムがすべてクラウドで稼働する初のオリンピックになると言われています。



■クラウドって何だろう？

クラウドサービス提供会社が用意したサーバーにユーザーがアクセスすることで、様々なサービスが利用できるようになるほか、各種データが保存・共有できるサービス全般が「**クラウド**」になります。

総務省発表の資料によりますと、2018年クラウドサービスを一部でも利用している企業の割合は58.7%であり、前年の56.9%から1.8ポイント上昇しています。

この反対に「**オンプレミス**」という言葉があります。

よくシステム系の業者と会話する際に「オンプレ」という発音が飛び交います。

初めて聞いた時に「オンプレ」って何だろうと調べた位です。

クラウドの逆で、サーバーを自社内におく事を意味します。



■クラウドの特徴

クラウドサービスには色々な特徴があります。

保守管理が容易

サーバー等のハードウェア保守の維持管理はサービスの提供者側で行います。

オンプレでも、保守をメーカーや業者に依頼する事が可能です。

保守サービス期間が切れて、サーバー更新時の再構築作業が不要になります。

迅速な拡張性

サーバーのCPU数★、メモリ容量、記憶装置容量等の変更が画面操作で行えます。

★CPU：中央処理装置の略、コンピュータの頭脳にあたります。

月額の利用料がかかります。

利用する内容や、提供業者により、様々な価格体系があります。

オンプレ運用とコスト比較が大切

クラウドサーバーの稼働環境が不明な場合があります。

※自社のデータセンターで提供している場合や大手のデータセンターを間借りしている等

弊社でも多くのサーバーが稼働していますが、クラウドで稼働しているサーバー、オンプレで稼働しているサーバーがあります。

弊社提供の発注システムはクラウドサーバーで稼働しています。

■バックアップの重要性

クラウドサービスのサーバー等の機器も故障が無いわけではありません。

クラウド利用でもバックアップデータを保存していれば、復旧後にクラウドサービスにデータを戻したり、自社でサーバーを立て再構築も可能です。

バックアップ先も

クラウドから別のクラウドへ

クラウドから自社サーバーへ

自社サーバーからクラウドへ

最適なバックアップ方法の検討が必要です。

弊社では、A事業所の自社サーバーデータはB事業所の自社サーバーへバックアップ

クラウドサーバーのデータは自社サーバーへバックアップ

多岐に渡って、每晚実施しています。

この様に違う地域にバックアップを置くことで、確実にデータを守る仕組みを構築しています。

■ 今年も、よろしくお願ひ致します。

いよいよ、今年は東京オリンピック、パラリンピックです。



1964年以来2回目。前回から56年目の開催となります。

私事ですが、1月より、「情報システム事業部」は「システムソリューション事業部」に組織変更されました。

システムを作るだけでなく、トータルで様々な問題解決に向けた活動をする組織としてスタートする事になりました。

情報システム事業部設立から18年、気持ちを新たに活動する所存でござ

います。

弊社の中期テーマである「コネクト」

社内のシステム同士がつながる。お客様のシステムともつながる。

色々な情報や機能をつなぎ、1つの操作で次々に連動連携していくシステム開発を進めて行きます。

皆様の利用環境が安心、安全、そして便利な道具になるよう、今年も「NEZUシステム通信」は、色々な情報発信をして参ります。

2020年も皆様にとって健やかで良い年でありますように、心よりご祈念を申し上げます。

編集後記

システムソリューション事業部の五味です。

私は住んでいる集落では、地域の活動がとても活発に行われています。（なぜか）年2回のお祭り、集落対抗の運動会、各種催しや町内清掃等々。親世代は大変ですが、子供にとっては楽しい催し物が年に何回も行われます。

その中で読み聞かせ会というものに年に4回あり、お年寄りが中心となって、子供たちに絵本や紙芝居の読み聞かせをしてくれます。家ではYouTubeばかり見ている息子も、この時ばかりは絵本や紙芝居を食い入るように見えています。世の中はデジタル化が進んでいますが、このようなアナログな物も大切にしたいと思うこの頃です。息子には、オリンピック選手とまでは言いませんが、健やかに育ててほしいものです。

発行：根津鋼材株式会社 住所：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-32-5(TEL)03-3805-5555

メール：hp-master@nezu-g.co.jp ホームページ：<http://www.nezu-g.co.jp/>

発行人：根津訓光／監修 樋口良成／編集長

編集：システムソリューション事業部 ※NEZUシステム通信に掲載された記事の転載はご遠慮願ひます。

このメールマガジンは、配信依頼がありましたお客様にのみ発行しております。

配信中止の場合は、お手数ですがhp-master@nezu-g.co.jpまでご連絡ください。その際には、御社名、御社（配信先）メールアドレス、担当者様名を明記くださいます様よろしくお願ひ致します。